

イチゴ就農、決意新た

J A 研修所生 修了前に知事訪問

J A 全農岐阜(全国農業協同組合連合会岐阜本部)の「岐阜いちご新規就農者研修所」(岐阜市曾我屋)でイチゴの生産技術や農業経営を学ぶ17期生5人が、今月末の修了を前に県庁に江崎禎英知事を訪ね、自らの手で育てたイチゴ「美濃娘」を贈り、研修成果を報告した。訪れたのは森功一さん

(50)＝岐阜市＝、櫻井肇さん(37)＝同＝、大杉浩武さん(42)＝美濃加茂市＝と、埼玉県から移り住んだ北崎慎哉さん(31)、智乃さん(30)夫妻＝岐阜市＝。昨年4月から14カ月間の研修に取り組んできており、来月に就農する予定。
西村寿文県本部長から紹介された5人は「健康第一



江崎禎英知事(中央)にイチゴを贈り、研修成果を報告した新規就農者ら＝県庁

で明るく楽しい農家を目指す」「地域の農家と協力する」などと抱負を語っ

た。江崎知事は贈られた美濃娘を味わい「いい香り。みずみずしくて、上品な甘さ」と絶賛。「作物は愛情に込めてくれる。プロとして楽しく農業をし、やってみよつと思わせるリーダーになって」と励ました。

研修所は2007年度にJ A 全農岐阜が設置。翌年度から研修生を受け入れており今回の5人を含め計64人が県内で就農。修了生の栽培面積は県内のイチゴ栽培面積の約3割を占める。

(小森直人)